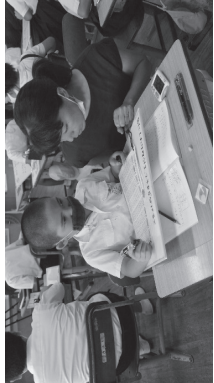





2 第3・4学年算数科の実践例

- (1) 題材名
「あまりのあるわり算」(学校図書3年上)
- (2) 本時の目標
○ 余りのある除法の除数と余りの関係を調べ、除数と余りの関係を正しく理解することができるようにする。[A(4)ア(7)]
- (3) 実際

「2けたでわるわり算」(学校図書4年上)

○ 10を単位として計算した場合のあまりの大きさを知ることができるようにする。[A(3)ア(エ)]

研究の視点	主な学習活動 (第3学年) 2/5時間	位置/時間	主な学習活動 (第4学年) 2/12	研究の視点
<p>視点1 (0) 子供主体的に学習を進める「ガイド学習の流れ」</p>  <p>板書を構造化し、授業のスタートからゴールまでの見通しを具体的に提示し、子供主体で学習を進めさせた。 《自力解決時に子供へ声をかけた場面》</p> <p>T: どうしたの? C: 23÷4って、4の段をつかって考えたらいいですがよね、T: そうだね、その考え方で大丈夫だよ。 C: じゃあ、ちよとよやってみます。 ☑ 子供主体で学習を進めることで、個別対応の時間を十分に確保し、上の場面のようの子供の困り感やつまずきを解消できるようにした。</p>	<p>1 前時の復習をする。</p> <p>2 学習問題を確認する。 □ まいの色紙を一人に4まいずつ分けると、何人に分けられ何まいあまりますか。</p> <p>3 立式させ、答えについてどちらがいかがいのか考える。 ① 23÷4=4あまり7 ② 23÷4=5あまり3</p> <p>4 本時のめあてを確認する。 どっちが正しいのか。</p> <p>5 進め方の確認をする。</p> <p>6 自力解決を図る。 ③ はあまりが小さくてもうわかれられないよ。 ④ だともまだ4枚以上残るから、⑤があっていると思うよ。</p> <p>7 考えを交流する。 やっぱり確かめてみて、わる数よりあまりが小さいよ。みんなはどう思う?</p> <p>8 まとめをする。 わり算のあまりはいつも、わる数より小さくなる。</p> <p>9 一般化を図る。 この表を見てもあまりがわる数より大きいことはないね。</p> <p>10 考え直しをする。 11 振り返しをする。 数が大きくなっても、わる数とあまりではあまりのほうが小さくなるんだな。</p>	<p>1 前時の復習をする。</p> <p>2 学習問題を確認する。 140まいの色紙を1人に30まいずつ分けると、何人に分けられ何まいあまりますか。</p> <p>3 立式させ、答え方についてどちらがいかがいのか考える。 ① 140÷30=4あまり20 ② 140÷30=4あまり2</p> <p>4 本時のめあてを確認する。 どっちが正しいのか。</p> <p>5 進め方の確認をする。 自力解決を図り、考えの確認をする。 ④だよ。教えていったら2あまりよ。</p> <p>6 自力解決を図る。 ⑤だよ。2あまりよ、枚数は20枚だから、⑥だよ。2あまりよ、枚数は20枚だから、考えを交流する。 あまりは元の数で考えたほうがいいのかもしれないよ。 あまりだから、バラで考えて20まいじゃないのかな。</p> <p>7 考えを交流する。 そうか。2だとあまりだから2まいではないね。あまりはわる数より小さくならないといけないね。</p> <p>8 まとめをする。 10のまとまりで計算したときは、あまりを元の大きさにもどす。</p> <p>9 練習問題で確認する。 70÷20</p> <p>10 考え直しをする。 11 振り返しをする。 去年学習した「2けた÷1けた」のように、わる数とあまりではあまりのほうが小さくなるんだな。問題の意味をよく考えてあまりを出そう。</p>	<p>視点2 (1) 子供たちの考えを基にした学習のまとめ</p>  <p>学習問題の表現をそろえて同時導入を行い、異学年の子供同士が協力して、学び合う視点を導入した。</p> <p>T: 3年生の式はどうなりますか? C: 23÷4です。 T: 4年生の式はどうなりますか? C: 140÷30です。 C3: 今日はどちらともわり算だね。 T: 3年生と4年生で何の違いがありますか? C4: 3年生は「2けた÷1けた」で4年生は「3けた÷2けた」です。 ☑ 学習内容を学年間でそろえることで、3年生は4年生での学習への見通しをもたせ、4年生は3年生での学習と関連付けて理解を深めさせるようにした。</p>  <p>話し合いにおいて子供たちの考えの共通点を基に、子供たちだけで学習のまとめができるようにした。 ガイド: まとめはどうなりますか? C1: 「10のまとまり」を使って考えたいです。 C2: 「あまり」をたばで考えたら2だけど、ばらで考えたら20枚だよ。 C3: 「あまり」はばらで考えないといけないと思います。 ガイド: まとまりとか、あまりやばらは共通点から出しました。めめてをつかってまとめで考えたいけど、どう書きますか? ☑ 話し合いにおいて深出しした共通点「まとまり・ばら」という言葉を使って、子供たちだけで学習のまとめを行い、達成感を味わうことができるようにした。</p>	
<p>視点3 (3) 自分の変容を捉える考え直しの時間</p>  <p>20÷4のあまりをどうすればいいか、考えがどう変化したのか、変容を捉えさせる印を使って可視化した。 C: (他の方へ) どう考えたの? (最後の考えの確認) T: どうしてこの考えに決めたの? C: OOさんの考えを聞いて、やっぱりと思ったからです。 T: ということは、どの印にすればいい? C: 最初自信がなかったから、じしして、特に子供は、自分の考えの変容を捉えにくい。そこで、教師が変容の要因を問うことで、考えの変容を気付くことができるようにした。</p>	<p>4) 成果と課題 (成果) ●</p> <p>○ ガイドを中心に子供主体で学習を進めたため、個別対応の時間を確保することができた。</p> <p>○ 考えの共通点を基にまとめを考えさせたことで、自分たちだけでまとめができることを実感することができた。</p> <p>○ 変容を可視化できる教具を用いることで考え直しの時間を通して、多くの子供が自分の考えの変容に気付くことができた。</p>			

- 子供たちだけでめあてをつくることができるように簡単な言葉のめあてにしたが、まとめとつながらず、まとめをつくるのに時間がかかってしまった。子供たちだけでつくる「まとめ」につなげるめあての在り方について研究をしていく必要がある。
- 話し合いで意見が分かれたり、まとめをつくるのに時間がかかってきたりして、振り返りの時間を十分に取ることができなかつた。「ガイド学習の振り返り」を活用した話し合いを繰り返して、より話し合いの仕方を子供に身に付けさせていく必要がある。